

YSK

焼津水産化学工業株式会社



Business Report 2009

平成21年 3 月期 期末報告書

(平成20年 4 月 1 日～平成21年 3 月 31 日)

天然素材のフィールドの中で、“おいしさと健康”を追求します。

Top Message

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃のご支援に心から御礼申し上げます。

さて、ここに平成21年3月期の期末報告書をお届けするにあたり、事業の概況についてご報告申し上げます。

当期の食品業界におきましては、上半期に燃料・原材料の価格が高騰して製造コストが上昇し、下半期は景気後退により消費が低迷するなど、厳しい経営環境が続きました。

このような環境の下、当社グループは“おいしさと健康”をテーマに事業活動を推進するとともに、3ヵ年中期経営計画の中間期として、企業価値の向上に取り組みました。

当期は子会社の好業績などで増収増益となりました

当期の調味料事業は、食品業界全体の需要が減少するなかで、当社が主力とする加工食品市場の低迷が影響して総じて低調でしたが、一部の粉末製品が大幅に伸びて売上高が増加しました。機能食品事業は、子会社で健康食品を通信販売するUMIウェルネス(株)の連結効果に加え、機能性食品素材および医療栄養食が順調に推移したことから、連結売上高は200億84百万円（前期比7.6%増）となりました。

利益は、燃料・原材料の価格高騰に加え、証券市場の急落に伴う退職給付金費用の増加や投資有価証券の時価低下などで圧迫されました。しかし、連結子会社の新規組み入れ、および既存連結子会社の収益改善、製品の販売量増加による工場稼働率の向上と経費削減により製造コストが減少したことなどから、営業利益は10億21百万円（同18.4%増）、経常利益は11億40百万円（同16.0%増）、当期純利益は6億17百万円（同18.6%増）となりました。

次期は調味料事業などが順調に推移し、増収増益を見込んでいます

次期（平成22年3月期）は、3ヵ年中期経営計画の最終年度となります。国内の景気は引き続き停滞し、消費低迷が予想されます。燃料価格は一定の落ち着きを取り



代表取締役社長
坂井和男

戻しましたが、原材料価格は依然不安定で、経営環境は引き続き厳しい状況にあるといえます。

当社グループは、引き続き不採算製品の見直し、生産効率の改善などを推進し、収益基盤を強固にしておくことにしております。次期は、医療栄養食の減少が予想されていますが、当期の業績を牽引した粉末製品や機能性食品素材が好調に推移する見込みで、連結売上高203億50百万円（前期比1.3%増）、営業利益10億70百万円（同4.8%増）、経常利益12億円（同5.2%増）、当期純利益7億円（同13.4%増）を見込んでいます。

当社は平成21年3月に創立50周年を迎えました。今まで大きな波乱もなく順調に歩んでこられたのは、株主の皆様をはじめとする関係各位のご支援の賜物と心から感謝申し上げます。当事業年度の期末配当金は、当初予定の1株当たり9円に創立50周年記念配当5円を加え、合計14円とさせていただきます。実施済みの中間配当金1株当たり10円とあわせて、年間配当金は1株当たり24円となります。また、次期配当金につきましては、1株当たり年間19円（中間10円、期末9円）配当を予定しています。

今後とも株主の皆様のご理解を賜り、末長いご支援をいただきますようお願い申し上げます。

決算ハイライト（連結）

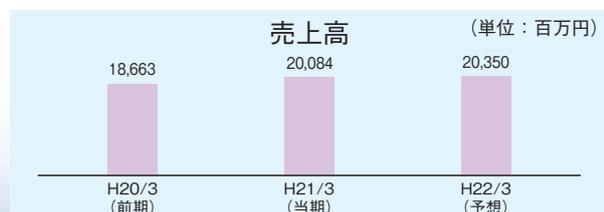
（単位：百万円）

	平成21年3月期(当期)	増減(前期比)
売上高	20,084	7.6%増
営業利益	1,021	18.4%増
経常利益	1,140	16.0%増
当期純利益	617	18.6%増

中期経営計画（ハーベスト・プラン）

- ・ 増益体質の確立
- ・ 優位性の創造と確立
- ・ 組織力の強化と連携
- ・ 社会・顧客対応の充実
- ・ 人材育成の強化

連結業績見通し



事業別の状況について

■ 調味料事業

食品業界は、少子高齢化による国内需要の減少で競争が激化し、さらに当社の主力としてきた加工食品市場は低迷しています。一方、持ち帰り弁当・総菜などの中食産業は好調で、当社はこの市場に向けた商品の開発や販売チャンネルの拡大に努め、営業基盤を整備しています。

当期（平成21年3月期）は、加工食品市場の低迷が影響して全体的に低調でしたが、当社の乾燥技術を駆使した一部の粉末製品が好調に推移し、売上高は100億48百万円（前期比6.3%増）となりました。営業利益は燃料・原料の価格高騰により圧迫されたものの、販売量増加による工場稼働率の向上などにより、11億71百万円（同10.7%増）となりました。

●調味料事業売上高推移(連結)



次期（平成22年3月期）は、粉末製品が引き続き好調に推移するほか、当社の機能性食品素材を利用した食品の提案を推進するなどして、売上高は104億円（前期比3.5%増）を見込んでいます。

■ 機能食品事業

健康食品市場は、販売方法や広告などの規制強化に不況の影響が加わり、停滞しています。しかし、消費者の健康志向は依然として高く、知名度があり効果が実感できる素材を使ったこだわりの商品は伸びています。当社は、素材PRや子会社のUMIウェルネス株の商品広告により、機能性評価の高いN-アセチルグルコサミンやアンセリンなどの知名度向上に注力しています。流動食などの医療栄養食市場は、急速な拡大はなくなりましたが、当社製造の流動食は、便利で衛生的な形

態のため需要は増加しています。

当期（平成21年3月期）は、UMIウェルネス株の連結効果に加え、機能性食品素材、流動食ともに順調に推移したことから、売上高は72億7百万円（前期比19.5%増）、営業利益は5億80百万円（同138.2%増）となりました。次期は、機能性食品素材などの増加を見込んでいますが、流動食の一部製品が減少するため、売上高は70億円（前期比2.9%減）となる見込みです。

●機能食品事業売上高推移(連結)



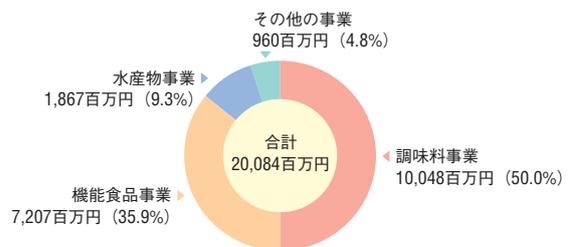
■ 水産物事業

魚価の変動を販売価格に連動することが難しいため、採算重視で積極的に不採算製品の整理などを行いました。この結果、売上高は18億67百万円（前期比11.2%減）となったものの、営業利益は1百万円（同25百万円増）となりました。次期は営業力の強化を図り、売上高を19億50百万円（同4.4%増）と見込んでいます。

■ その他の事業

受託加工製品が増加しましたが、不採算品を整理したため売上高は9億60百万円（前期比10.3%減）にとどまり、営業利益は5百万円（同67百万円増）となりました。次期は中食向け小包装製品を充実させることで、売上高10億円（同4.1%増）とする計画です。

■ 事業別売上高構成比



トピックス

■ 外食・中食向けに新品を発売



冷凍だし「風味氷結® シリーズ」

作りたての「だし」の“香り”と“旨み”を再現した冷凍和風だしシリーズ。抽出後に濃縮や加熱殺菌をしないため、本来の風味そのまま。当社独自の高濃度抽出技術と除菌技術により実現しました。



ペースト調味料「旨みたっぷりYSKシリーズ」

厳選素材をそのままペーストにしました。化学調味料を使用しない自然な旨みが広がります。扱いやすい小型容器で手軽に利用できます。

主要事業の紹介

調味料事業

・調味料の製造

皆さんが普段口にしているラーメンのスープやうどん・そばのつゆ、冷凍食品やスナック菓子の味付けには、カツオ、昆布、エビ、鶏などさまざまな天然素材から抽出した天然調味料が使われています。当社はこれらの調味料を製造し、加工食品メーカー・外食産業などに販売しています。



しょうゆラーメン

名称 即席カップめん 原材料名
味付け油揚げめん、食塩、しょうゆ、
かつおエキス、こんぶエキス、しい
たけエキス、糖類、香辛料、調味料
(アミノ酸等)、リン酸塩 (Na)



<天然調味料>

カツオエキス
昆布エキス
ホタテエキス
カニエキス
オイスターエキス
…etc

機能食品事業

・健康食品原料（機能性食品素材）の製造

機能性食品素材とは、ヒトが摂取したとき、健康を増進する効果のある成分のことで、サプリメントや健康飲料などに利用されています。当社は主に海洋天然素材から機能性食品素材を取り出し加工食品メーカー、サプリメントメーカーに販売しています。



グルコサミン サプリメント

名称 N-アセチルグルコサミン含有食品
原材料名 N-アセチルグルコサミン、
デキストリン、ビタミンC、乳化剤、Ca



<機能性食品素材>

N-アセチルグルコサミン
アンセリン
マリノコラーゲン
フコイダン
コンドロイチン硫酸
…etc

・健康食品の通信販売

当社の子会社UMIウェルネス(株)は、当社が開発した機能性食品素材を使った健康食品を通信販売しています。



・流動食の受託製造

流動食は手術前後の患者や高齢者など、通常の食事がとりにくい方に使われます。当社は注ぎ口のついた便利で衛生的な流動食を受託製造しており、需要が拡大しています。



当社グループの事業領域

天然原料

調味料事業

・調味料の製造

水産物事業

・水産物の加工

その他の事業

・受託加工
・香辛料の製造

独自技術

機能食品事業

・健康食品原料の製造
・医療栄養食(流動食)の受託製造
・健康食品の通信販売

おいしさ

健康

連結財務データ

■連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	平成20年3月期 (平成20年3月31日現在)	平成21年3月期 (平成21年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	10,608	10,754
固定資産	10,037	9,773
有形固定資産	6,683	6,859
無形固定資産	77	54
投資その他の資産	3,275	2,859
繰延資産	14	7
資産合計	20,660	20,535
(負債の部)		
流動負債	3,186	3,358
固定負債	858	650
負債合計	4,044	4,009
(純資産の部)		
株主資本	16,519	16,766
資本金	3,617	3,617
資本剰余金	3,414	3,414
利益剰余金	9,492	9,740
自己株式	△ 4	△ 5
評価・換算差額等	96	△ 241
その他有価証券評価差額金	36	△ 233
為替換算調整勘定	59	△ 7
純資産合計	16,615	16,525
負債・純資産合計	20,660	20,535

■連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	平成20年3月期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	平成21年3月期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
売上高	18,663	20,084
売上原価	15,213	15,841
売上総利益	3,449	4,242
販売費及び一般管理費	2,587	3,221
営業利益	862	1,021
営業外収益	173	171
営業外費用	52	51
経常利益	983	1,140
特別利益	119	1
特別損失	91	96
税金等調整前当期純利益	1,011	1,046
法人税、住民税及び事業税	452	486
法人税等調整額	38	△ 57
当期純利益	520	617

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	平成20年3月期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	平成21年3月期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,014	929
投資活動によるキャッシュ・フロー	150	△ 906
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,186	△ 610
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 4
現金及び現金同等物の増加額(減少額△)	977	△ 591
現金及び現金同等物の期首残高	1,544	2,583
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	61	26
現金及び現金同等物の期末残高	2,583	2,017

■連結株主資本等変動計算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計	
平成20年3月31日 残高	3,617	3,414	9,492	△ 4	16,519	36	59	96	16,615
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当			△ 266		△ 266				△ 266
当期純利益			617		617				617
自己株式の取得				△ 1	△ 1				△ 1
自己株式の処分		△ 0	△ 0	0	0				0
連結子会社増加に伴う利益剰余金の減少			△ 101		△ 101				△ 101
株主資本以外の項目の連結会計 年度中の変動額(純額)						△ 270	△ 67	△ 337	△ 337
連結会計年度中の変動額合計	-	△ 0	248	△ 0	247	△ 270	△ 67	△ 337	△ 90
平成21年3月31日 残高	3,617	3,414	9,740	△ 5	16,766	△ 233	△ 7	△ 241	16,525

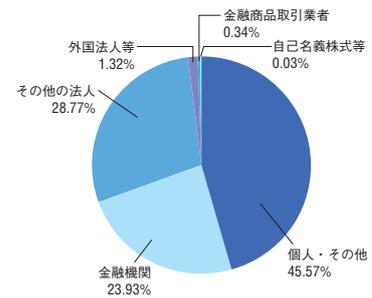
株式の状況

(平成21年3月31日現在)

- 発行可能株式総数
- 発行済株式の総数
- 株主数
- 大株主(上位10名)

50,000,000株
14,056,198株
9,560名

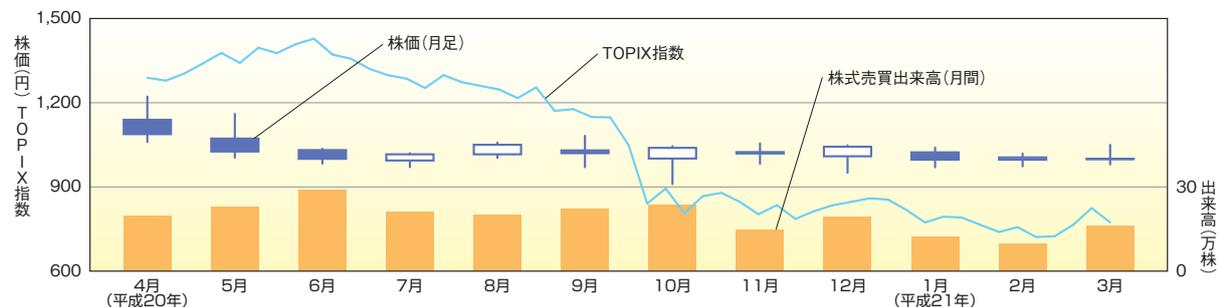
■所有者別株式数構成比率



株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
宝ホールディングス株式会社	1,193千株	8.50%
日油株式会社	902	6.43
株式会社静岡銀行	678	4.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	676	4.82
鈴木ミツエ	530	3.77
株式会社りそな銀行	478	3.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	421	3.00
日興シティ信託銀行株式会社	371	2.64
松本圭一郎	323	2.30
焼津信用金庫	321	2.29

(注) 出資比率は自己株式を控除して計算しております。

■株価および出来高の推移



会社概要

(平成21年3月31日現在)

■商号	焼津水産化学工業株式会社		
■事業内容	天然調味料および機能食品の製造販売		
■資本金	36億1,764万円		
■創業年月日	昭和34年5月15日		
■取引銀行	りそな銀行東京営業部／静岡銀行本店営業部		
■社員	256名		
■役員			
(平成21年6月26日現在)			
代表取締役社長	坂井 和男	取締役	又平 芳春
代表取締役専務取締役	山本 和広	取締役	山田 直道
常務取締役	酒井 尚吾	常勤監査役	石黒 厚士
取締役	高橋 英之	監査役	田中 浩
取締役	齋藤 滋	監査役	澤本 猪三雄
取締役	松田 秀喜	監査役	石野 達佳
取締役	石川 真理子		

■事業所
静岡本部 〒422-8067 静岡県静岡市駿河区南町11番1号
静岡・中京銀静岡駅南ビル6F
TEL.054-202-6030 FAX.054-202-6031

焼津本社
営業所 東京営業所 大阪営業所 名古屋営業所 静岡営業所 九州営業所
工場 静岡県内3工場(焼津工場 榛原工場 大東工場)

■連結子会社
会社名 オーケー食品株式会社 会社名 マルミフーズ株式会社
資本金 50百万円 資本金 100百万円
当社の議決権比率 100% 当社の議決権比率 100%
主な事業内容 香辛料および調味料の製造 主な事業内容 水産物の加工販売

会社名 大連味思開生物技術有限公司 会社名 UMIウェルネス株式会社
資本金 450万米ドル 資本金 50百万円
当社の議決権比率 100% 当社の議決権比率 100%
主な事業内容 天然調味料および機能食品の製造販売 主な事業内容 健康食品の通信販売

●当社ホームページのご案内

当社ホームページでは、株主・投資家の皆様に対し、企業情報や財務情報などを積極的に開示しています。最新のトピックスを随時更新し、当社の事業活動や動向を紹介しています。当社を一層ご理解いただくためにも、ぜひアクセスしてください。



<http://www.yskf.jp/>



<http://www.yskf.jp/ir/>

株主優待

当社は、毎年3月31日現在の株主名簿に記載された1単元(100株)以上所有の株主の皆様へ、自社関連商品をお送りしています。

本年は、平成21年3月31日を基準に、100株以上500株未満所有の株主の皆様には、当社100%出資の通販子会社「UMIウェルネス(株)」の新商品「海の子カラ アンセリン」を、また、500株以上所有の株主の皆様には、これに加えて静岡産新茶を平成21年5月にお送りしました。



株主メモ

■事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで。
■定時株主総会 毎年6月下旬に開催いたします。
■配当金・中間配当金 期末配当金については3月31日現在の株主に対し、中間配当金については9月30日現在の株主に対し、ご指定の方法によりお支払いいたします。
■単元株式数 100株
■上場金融商品取引所 東京
■基準日 (1) 毎年3月31日といたします。
(2) その他必要ある場合には、あらかじめ公告をもってお知らせいたします。
■株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
■同事務取扱所 (〒168-0063)
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
電話番号 (0120)78-2031 (フリーダイヤル)

■同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

■公告掲載新聞 日本経済新聞に掲載いたします。

■株式に関する各種手続きのお申し出先
1. 証券会社経由で証券保管振替機構(ほふり)に株式がある場合
お客様が口座を開設している証券会社
2. 特別口座に株式がある場合
中央三井信託銀行株式会社
お問い合わせは下記の証券代行部フリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。

●フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付:自動音声案内)

●ホームページ http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html